

《担当者名》教授 / 小林 道也

【概要】

薬物相互作用の予測と回避は、医薬品の適正使用を遂行する上で極めて重要である。本講義では、医薬品の投与量および薬物血中濃度を基に、相互作用の発現について in vitroとin vivoの相関性を評価する方法を修得する。

【学修目標】

- ・薬物相互作用の機序とその回避方法を説明できる。
- ・薬物相互作用発現時に薬剤師が関わるべき対応を説明できる。
- ・文献値を基に、薬物相互作用の発現を予測できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 5	薬物相互作用の発現機序	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な薬物動態学的相互作用の発現機序を理解し、その具体例と回避方法を列挙できる。 ・代表的な薬力学的相互作用の発現機序を理解し、その具体例と回避方法を列挙できる。 	小林 道也
6) 10	薬物相互作用の発現時の対処法	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物動態学的並びに薬力学的相互作用発現時の臨床症状を理解し、薬剤師として関わるべき対処法を具体的に説明できる。 	小林 道也
11) 15	薬物相互作用の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・in vitro実験や動物実験から得られた知見を把握し、ヒトにおける薬物相互作用の有無を予測できる。 	小林 道也

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

課題発表内容(60%)とレポート内容(40%)

【教科書】

特に指定しない(プリントを配布する)

【参考書】

特に指定しない

【学修の準備】

今回の授業内容について、予め関連事項を予習しておくこと。